

留学生との交流

ハンドブック

Yokohama
National
University



横浜国立大学 国際戦略推進機構

はじめに

この冊子は、「留学生と話してみたい」、「留学生と友だちになりたい」と思っている日本人学生を念頭においています。横浜国立大学にはたくさんの留学生が学んでおり、しかも留学生の多くは日本人学生と「話してみたい」、「友だちになりたい」と思っているのです。

ですから、地の利にある日本人学生の方から、留学生がおかれている立場や位置について基本的なことをわきまえた上で、留学生に働きかけさえすれば、キャンパスのいたるところで「異文化コミュニケーション」や友情がはぐくまれる土壌はすでに用意されていると言えます。

JOY プログラムという、横浜国立大学における短期留学プログラムのかつてのスローガンを借りれば、「駅前留学」より「学内留学」です。

と言っても、本文でも書いたように、この冊子のめざす「学内留学」はあくまで英語習得のための「留学」ではなく、異文化保持者とふれあうことを通じて多文化的な視野と心性を獲得するための「留学」です。

この冊子をざっと通読して、キャンパスの中での「留学」に旅立つ読者が数多く現れることを期待しています。

2019年3月

横浜国立大学 国際戦略推進機構

目次

1	学内に留学生はどれくらいいるか……………	1
2	留学生の出身国……………	3
3	留学生と奨学金・アルバイト……………	5
4	留学生とたべもの……………	7
5	留学生と何語で話すか……………	9
6	留学生と何を話すか……………	11
7	留学生と知り合うには……………	13
8	留学生が困っていること……………	17
9	留学生のチューターになったとき……………	20
10	留学生がチューターに望むこと……………	24

1 学内に留学生はどれくらいいるか

●横浜国立大学にはたくさんの留学生がいる

横浜国立大学には、2018年5月現在、972名の留学生がいます。全国の国立大学の中で12番目の留学生数ですが、学生数における比率は約10%、つまり10人に1人は留学生ということになります。この比率の高さは、私立大学を加えても全国の大学でトップレベルです。

「それにしても、普段、あまり留学生を見かけないのですが」、と思う人も多いかもしれませんね。それには2つの理由があります。一つは、中国や韓国からの留学生が多いので、日本人学生の中で、欧米等からの留学生のように目立たないこと。もう一つは、大学院生の留学生が多いので、主に研究室に出入りしていることが多く、キャンパスや教室ではあまり出会わないという点です。

前者の点は、日本全体の留学生受け入れの動向を反映しているので、日本の留学生受け入れ政策の動きを簡単に見ておきましょう。

●留学生受け入れ30万人計画

1983年に発表された「留学生10万人計画」は当時1万人だった留学生数を21世紀初頭には10倍に増やすというものでしたが、2003年に達成されました。現在は、2008年に福田内閣によって提唱された「留学生30万人計画」が進行しています。

「10万人計画」はアジア諸国への国際貢献という意味合いが強かったのですが、「30万人計画」では、大学教育の国際的競争力を増して、高度な人材としての留学生を獲得することが目指されています。

「10万人計画」達成に最大の貢献をしたのは、中国からの留学生です。中国からの留学生が、日本に留学している留学生の約半数を占めてきたという事実の背景には、中国社会の留学事情と、日中の経済交流の蓄積を見ることができます。また、この数年ベトナムからの留学生の増加が顕著ですが、こうした変化も、日本企業のベトナム進出の拡大や日本社会の労働

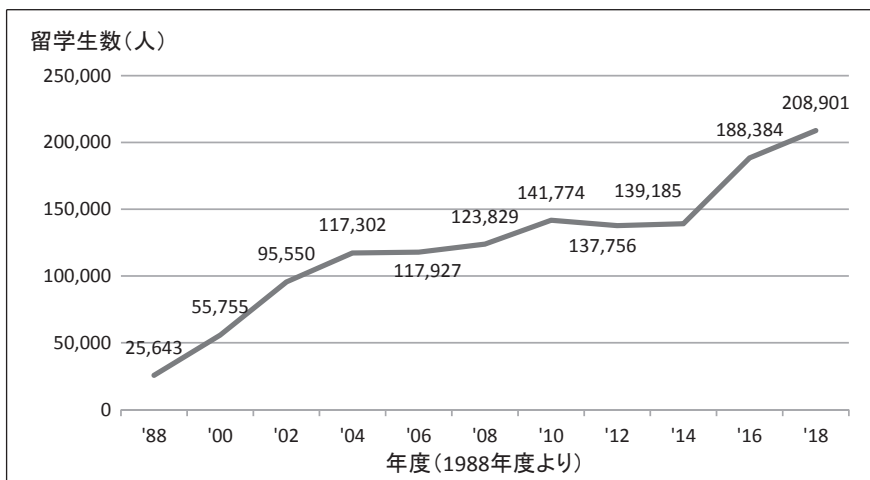
市場の状況などと無縁ではありません。

このように、留学生受け入れのあり方は、留学生政策や経済、社会の状況に大きく影響を受けています。この点との関連で言えば、きみたち一人ひとりが留学生との友情を育てることは、単純なナショナリズムや排外（あるいは排外）主義に流されない国際交流関係を市民レベルで作り出すという、政治的・社会的効果を生み出すことにつながるということを心にとどめておく必要がある、と思います。

●院生・研究生は学部生の約3倍

横浜国立大学に在籍する972名の留学生の学籍区分をみると、学部生218名（22%）、大学院生532名（55%）、研究生107名（11%）、交換留学生、その他115名（12%）となっています。学部留学生は1学年平均約55名で、大学院留学生は学部留学生の約2.4倍になります。日本全体では、むしろ学部留学生の方が多い状況ですから、横浜国立大学では大学院生留学生の割合がきわめて高いと言えるでしょう。

●日本全体の留学生数の推移（高等教育機関在籍者数・JASSO調べ）



●留学生＝「英語を話す人」か？

「留学生」というと「英語を話す人」というイメージを持つ人が結構いると思います。本当に留学生はみんな「英語を話す人」なののでしょうか？

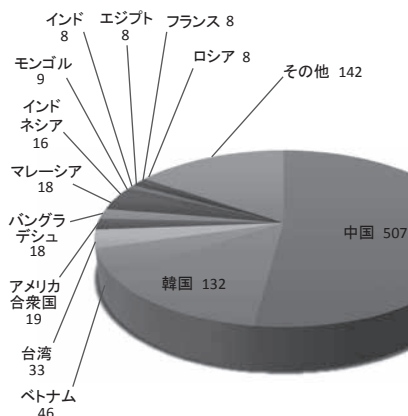
横浜国立大学には2018年5月現在、世界78か国・地域から留学生が来ています。そのうち、中国507名（約52%）と韓国132名（約14%）の2か国で全体の約7割となり、3位のベトナムの46名、4位の台湾が33名など、アジアからの留学生は全体の約9割にのぼります。他の地域としては、アメリカ合衆国の19名、エジプト、フランス、ロシアの各8名が目につく程度で、英語を母語とする留学生はあまりいないというのが実態です。

中国からの留学生が圧倒的に多いことと、アジア諸国からの留学生の比率が約9割になる点は、日本全体でも同様です。留学生の出身国別グラフを、横浜国立大学と日本全体の高等教育機関在籍者とで対照してみましょう。

●留学生の出身国別グラフ

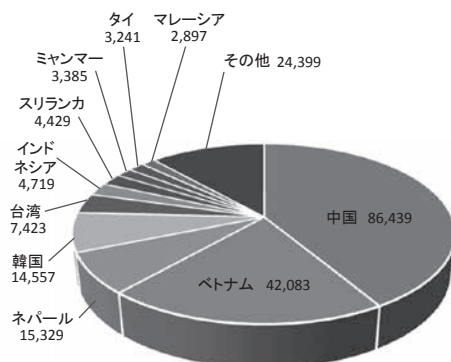
【横浜国立大学の場合】

総数972名（2018年5月）



【日本全体の場合（高等教育機関在籍者）】

総数208,901名（2018年5月）



〈単位：人〉

日本全体では、中国が41.4%を占め、次いでベトナムが20.1%、続いてネパールが7.3%、韓国7.0%、台湾3.6%、インドネシア2.3%、スリランカ2.1%となっています。上位10か国全てがアジア諸国であり、全体としてアジア諸国の比率は92.4%です。つまり日本の高等教育機関で学ぶ留学生の9割以上がアジアからの留学生なのです。

●考えてみたい2つの点

中国、ベトナム、ネパールをはじめアジアからの留学生が9割を超えることから、きみたちは何を思うでしょうか。私は、きみたちがアジアからの留学生とつきあう時に、次の2つの点を心にとめておかれることを勧めたいと思います。

A 日本はアジアの一員なのか？

地理的には日本はアジアに位置していますが、国際社会ではよく日本は「よき隣人」を持たない国と言われます。どうして日本はアジア諸国に「よき隣人」を持たないのでしょうか。その背景に、日本が明治以降、台湾、韓国、中国、東南アジア諸国を植民地化した歴史的事実があることは否めません。その歴史過程を踏まえた上で、私たちはどのような位置をアジアの中で占めるべきなのかを考えたいと思います。

B 私たちはアジアについて何を知っているのか？

学校教育やメディアにおける、欧米の視点を偏重する世界史や世界地理からの知識だけでは、私たちのアジア理解はきわめて心もとないものがあります。私たちは中国、韓国、東南アジア諸国について何をどこまで知っているのでしょうか？

これらの点について深く考えようとする時、アジア諸国からの留学生は信頼できるパートナーとしての役割を果たしてくれるはずで、そして、きみたち自身が、彼らのように、彼らの国々を深く知るための留学を志すことも一つの選択肢になるのではないのでしょうか。

●留学生＝「奨学生」か？

留学生というと、「奨学金をもらって勉強している外国人学生」という一般的なイメージもあるようですが、実は留学生の中で奨学金をもらっている人は少数派です。

奨学金には文部科学省が出すものと、それ以外の奨学金の2種類があります。前者は「国費」と呼ばれていますが、横浜国立大学での国費留学生は約13%を占めています。同等の奨学金のある政府派遣留学生などを加えると、全体の約2割の学生は、経済的な苦勞はあまりしないですみます。しかし、それ以外の留学生の場合、民間の奨学金をもらっている学生は1割くらいしかいません。しかも民間奨学金はあまり多額でないものもあり、それだけでは学費や生活費をまかなうことはできません。

●留学生のアルバイト

大部分の日本人学生は親から仕送りをしてもらっていると思いますが、留学生の場合、特にアジア諸国から来ている留学生は、日本と母国との経済水準の差による為替格差のために、親から仕送りをしてもらうわけにはいかない人もたいへん多いのです。そこで、奨学金をもらえない留学生、あるいは十分な額の奨学金をもらえない留学生は学費や生活費を稼ぐためにアルバイトをせざるを得ない状況です。

学費と生活費を全部自分でまかなわなくてはならないとしたら、どのくらいの時間、アルバイトをしなくてはならないかを考えると、そうした境遇の留学生がいかんたいへんか、よく分かります。

この冊子の「**8**留学生が困っていること」を見ると、留学生が最も困難を感じていることの上位に「家賃が高いこと」「奨学金がもらえないこと」「学習時間が充分にとれないこと」と経済的なことと関連する項目が上がっています。学習時間がとれない背景にはアルバイトに多大な時間を割かざるを得ない現状があり、経済的なことが大きな問題となっていることがわかります。

●「資格外活動」許可（入国管理局に申請して許可を得る）

留学生はあくまで勉学のために日本に来ているのであって、アルバイトで稼ぐことばかりの生活となってしまえば本末転倒です。そこで、留学生は、留学という「(日本滞在)資格」以外の活動、つまりアルバイトをする時間を制限されています。学期のあいだは、1週間に28時間まで、長期休暇中は1日8時間までが「資格外活動」として許可される時間です。

欧米では、留学生にたいして、こうした「資格外活動」を許可していない国がほとんどである上に、留学生の学費を自国学生よりも高くしているケースもあります。その点を考えると、日本は、「留学生が働きながら学べる国」という環境を提供していると言えます。

学費や生活費の一切をすべて自らのアルバイトで工面していた学生のことを、かつては「苦学生」と呼び、まわりの人々は彼らのそうした状況を理解して、支援するような雰囲気がありました。今も、日本の大学で学ぶ留学生の過半数はそうした「苦学生」なのです。現代の「苦学生」である、こうした留学生たちに対しても、かつてのような支援のための環境づくりが、もっと必要ではないでしょうか。



国際教育センター 105主催「新入留学生ウェルカムパーティー」の様子

留学生といっしょに食事をするようになったとき、おさしみや、お酒を飲めてもだいじょうぶか気になることがあるかもしれません。留学生の中には、おさしみが大好きという人もいる一方で、おすしやさしみなど生魚は全くだめという人もいます。宗教によっては、禁じられている食べ物もあります。いっしょに食事をするときは、何か食べられないものがないかどうか確かめておきましょう。その上で、料理を勧めてみてください。

●イスラム教の場合

中東、北アフリカ、中央アジア、バングラデシュ、パキスタン、インドネシア、マレーシアなどからはイスラム教徒の留学生がたくさん来ていますが、イスラム教では、食べ物についていくつかの決まりがあります。

まず、豚肉を食べることはできません。豚の油などその一部を使った料理もだめです。他の肉の場合でも、厳密には、宗教で決められた手続きをとって用意された「ハラールミート」と呼ばれる肉しか食べられないということです。また、お酒も口にすることができません。ですから、目の前に出された料理の材料を知ることは彼らにとってはとても大切なわけです。

パーティーや旅行などでイスラム教徒の留学生がいるときは彼らが食べられる料理があるかどうか注意することが必要です。

イスラム教徒の留学生に配慮して、大学生協にハラールフードの売り場が開設されました。また、第二食堂ではハラールミートのメニューが出ています。イスラム教徒以外の学生も注文できます。ハラールミートのメニューは学内のパーティーの時も利用可能です。

それからもうひとつ食事に関して知っておいてほしいのは、イスラム教では「ラマダン」と呼ばれる断食の期間が年に約1ヶ月間あることです。この時期は、太陽が出ている間は、食べ物も飲み物も何も口にすることができません。太陽が昇る前と太陽が沈んだあと、食事をとります。ただし、体の具

合が悪い人などにはちゃんと配慮があるそうです。

なお、イスラム教の食習慣や生活習慣についてもっと知りたい人は、以下のサイトを参照してぜひ理解を深めてください。

《名古屋大学・ムスリムの学生生活》

<http://acs.iee.nagoya-u.ac.jp/en/doc/interculture/201510muslim.pdf>

●ベジタリアン

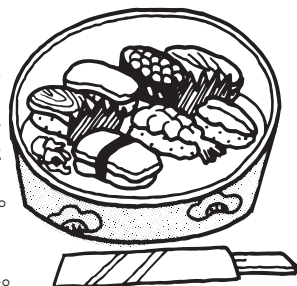
留学生の中には、肉や魚を食べないベジタリアンもいます。ベジタリアンと言っても一様ではなく、何が食べられるかは人によっても違います。世界を見渡せば、地域によって好まれる料理、好まれない料理があり、また個人ごとに好き嫌いもあるでしょう。

留学生を招いたり、いっしょに食事をしたりするときは、日本人同士で食べるとき以上に、皆が食事を楽しめるような配慮が必要だと言えます。

日本の食べ物と言えば……

日本料理というまず、天ぷら、すし、すき焼き、しゃぶしゃぶなどを思い浮かべる留学生が多いようです。でも、長く日本に住んでいる外国人の中にはラーメン、カレーライス、牛丼、親子丼などの方が代表的な日本料理だという人もいます。

確かにこちらの方が、より庶民的な食べ物という点で「代表的」と言えるかもしれませんね。



日本の食べ物のなかで留学生にとってインパクトのあるものと言えば「納豆」でしょう。やはり、納豆はちょっと食べられないという反応が多いようです。匂いとネバネバした形態がなんとも言えないのかもしれません。

ただ、納豆は西日本でもあまり好まない人が多いので、納豆に対する拒絶反応は、外国人特有のものとも言いきれませんが……。

相手が留学生だと、「英語で話さなくては」と身構えてしまう人がいますが、そんなことはありません。横浜国立大学で学んでいる大半の留学生とは日本語で話すのがふつうです。日本語で積極的に声をかけてみましょう。

日本語が全然通じない時には、自分の英語にコンプレックスを持たないで、基本的な英語でコミュニケーションをとるようにしましょう。

●留学生の日本語力

学部の留学生は学部入試に合格してきており、学部が要求している日本語力をすでに十分に持っています。なにしろ学部生は日本人学生と同じ授業を受けて単位をとらなくてはならないのですから。大学院生の留学生の場合、特に理系の大学院入試では基本的な日本語力でも合格できるので、日本語でのコミュニケーションがあまり得意ではないこともあります。それでも、ふだんの研究室でのやりとりは日本語でなされているので、日常的な会話は日本語で十分できます。

JOYプログラムの短期留学生やYCCS、一部のコースの大学院生の中には、英語で行われる授業だけを履修することによって修了できるので、日本語はまったくのビギナーという人たちもいます。そうした留学生たちも、ごく基本的な日本語クラスは受けているので、易しくシンプルな表現でなら日本語でもコミュニケーションがとれると思います。

●日本語をとらえ直す

留学生とつきあう楽しさの一つに、日常の見慣れた事柄を別の角度から見る視線に接することがあると思います。留学生と日本語で話し合っていく中で、まずは、君たちは日常の見慣れた事柄である「日本語」について、きっといろいろなことを考えさせられるのではないのでしょうか。「日本語はむずかしい」とか「独特である」とか「非論理的である」といった数々のステレオタイプ of 日本語観とは違った角度からの日本語にたいする発見が得られるはずです。

日本語での会話に慣れていない留学生と話すときは、話が相手によく伝わ

るように、次の点に気をつけてみてください。

- ◎明解に、少しだけゆっくりめに、親しみをこめて話す。
- ◎できるだけ複文ではなく、単文に切って話す。
- ◎一人で長々と話さず、相手とのキャッチボールのような会話になるように話す。(ただし、相手にやたらに相づちを求めてはいけない。)

●英語をとらえ直す

横浜国立大学では中国人や韓国人の留学生が圧倒的多数なのに、なぜ「留学生＝英語」という固定観念が抜けないのでしょうか。

つい500年ほど前には、ごく狭い地域の少数の人々が話していたにすぎない英語がなぜ当然のように「世界共通語」を標榜しているのでしょうか。ここでは、大英帝国の植民地主義の歴史と、アメリカ合衆国による世界支配体制、インターネットやハリウッドを代表とするアメリカの大衆文化の世界的浸透が土台となっていることは確かです。別に、英語が特に「すぐれた言語」や「論理的な言語」であるために、世界的に広まったというわけではありません。

現在、先進的な英語教育者たちは、Englishes (複数の英語) ということを経営教育の基盤にしています。私たちも、Japanese Englishを恥じることなく、通じる英語で留学生とコミュニケーションをとることにしましょう。

●やさしい日本語

近年、「やさしい日本語」という概念が広まってきています。これは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすいように配慮した日本語のことです。地震などの災害が起こったときにも有効なことばで、留学生との交流にも活用できます。かながわ国際交流財団では、「やさしい日本語でコミュニケーション」というリーフレットを発行しています。下記ページよりダウンロードできますので、参考にしてください。

- <http://www.kifjp.org/wp/wp-content/uploads/2018/02/yasashiinihongo180208.pdf>

Hello-Goodbye Englishということばを聞いたことがありますか。「今日は」とか「さようなら」というような日常的な挨拶表現だけに習熟していて、内実のある会話を交わすには至らない、薄っぺらの英語力や英語表現を表しています。君たちが留学生と話し合えるようになったとしても、Hello-Goodbye Japaneseに終始していたのでは、お互いにおもしろくありませんね。実は、留学生たちから、「せっかく日本人の友だちができて、表面的な話しかできない」という不満の声をよく聞きます。

では、どうしたら留学生と、より深い話が交わせるようになるのでしょうか。もちろん、何か特効薬のようなものがあるわけではありませんが、以下に、こんなことを心がけてみたらどうだろうという点を箇条書きしてみますので、参考にしてください。

●まずは声かけから

Hello-Goodbye Japaneseでは物足りないとはいっても、Hello-Goodbyeは交流の土台であることは確かでしょう。相手と目を合わせて、挨拶とスマイルを交わすことから出発して、それを積み重ねていくことが、留学生とのコミュニケーションへの水やりのようなものだと思います。特に、スマイルで相手への親しみを表現することが大事です。

●相手の名前を正確に覚える

これも留学生との交流にかぎらず一般的なルールですが、特に留学生の場合にはなじみのない発音である場合が多いので、名前を正確に覚えることが大切です。少し親しくなったら、相手の呼んでほしい呼び名を教わって、その名前前で呼びかけるようにしましょう。皆さんの方も、留学生が呼びやすい呼び名を考えておく方がいいでしょう。

●相手の国のことを調べる

旅行のガイドブックやインターネットで相手の国のことを調べてみましょう。そして興味を持ったこと、疑問に思ったことを相手の留学生に質問してみるといいでしょう。ただし、こうしたやりとりはあくまで出発点のもので、「国」というくくり方は表層的なものにすぎないからです。自分が遠い国に留学していて、相手のネイティブ学生から「日本は・・・」といったステレオタイプばかりを聞かされたら、自分はどう思うかを考えてみると分かると思います。「国」よりも、もっと小さい単位、つまり相手が生まれ育った地方の文化や習俗の方に思いをはせる方がより深い話に発展するのではないのでしょうか。

●共通の関心事を見つける

留学生というと「外国人」「異文化」というように、自分とは「違う」という側面にのみ目が向きがちですが、相手の留学生と皆さんとは、このグローバル時代をともに生きる若者としての共通点がたくさんあるはずです。映画、音楽、スポーツ、ゲームといった趣味的なことでもいいし、若者文化の共通性について話し合ってみるのもいいでしょう。あるいは、環境問題や人口問題といった地球規模の課題や、世界史的な時事問題の意味について語り合うのも若者らしい交流だと思います。

よく異文化間の交流では、「宗教と政治の話題は避けた方がいい」、とされます。それらの事柄について論じるためには社会的、文化的、経済的等々の背景的知識を十分に持っていなくてはならないからでしょう。しかし、相手が大切に思っている価値観を察知して重んじる姿勢を持ってさえいれば、若い人たちの交流のトピックにことさらにタブーを多くつくってしまう必要はないと思います。

現在、校内の学生10人のうち1人は留学生です。日本人とよく似たアジアからの留学生が多いので、あまり気がつかないかもしれませんが、実は皆さんの周りには留学生がたくさんいるはずですよ。しかし、留学生だとわかったとしても、いきなり声をかけるのはむずかしいかもしれませんね。

留学生と知り合いたいときは、以下のような機会を利用してみてください。日本人学生との交流を望んでいる留学生もたくさんいます。

●授業で知り合う

横浜国立大学では、日本人学生と留学生との協働作業を主体とする授業を中心に、英語で授業を行うグローバル教養科目や国際交流科目を多数提供しています。これらの科目は「グローバルPlusONE副専攻」としても開講されているため、定められた単位を修得すると修了書を取得することもできます。

また、国際教育センターで開講されている「国際理解」科目（全学教育科目）も多数の留学生が履修しています。履修を希望する方は、履修案内等を調べ、担当の教員や窓口にご相談してみてください。

●チューターになる

留学生に対して、日本人学生がチューターとして生活や勉強の手助けを行う制度があります。チューターになりたいときは、各学部・大学院の留学生担当の教員や指導教員にそのことを伝えてみてください。チューターが必要なときに候補者として声をかけてもらえる可能性があります。また、学部・大学院によっては、学務担当係でチューター登録を受付けている場合があります。

チューターには謝金が支払われますから、きちんとサポートをすることが求められますが、同時にチューター活動がお互いの交流を深めるよいきっかけになることも期待されています。（なお、チューターとしての心得については、この冊子の9、10を参考にしてください。）

●トークタイムに参加する

トークタイムは、英語圏・韓国・フランスなどの協定校からの交換留学生が、母語を教えながらYNU学生と交流する活動です。詳細は、本学ウェブサイトを見てください。

●国際教育センター105、ISL、学生国際ボランティアなどの活動に参加する

本学では、学生による留学生支援も活発です。国際戦略推進機構長公認の「国際教育センター 105 (いちまるご)」と「ISL (International Students Lounge/アイスル)」では、活動に関心のある意欲的な学生スタッフを随時募集しています。詳しくはウェブサイト等でご確認ください。

国際教育センター 105 <https://ynu-isc-room105.jimdo.com/>

平日11:30～14:30(長期休暇中を除く)、国際教育センター 2 階ロビーにて、学生スタッフが留学生の日本語・学習サポートや生活全般に関するアドバイジング活動を行う。その他、留学生との交流を目的としたイベントを実施。

ISL (International Students Lounge) <https://ynu-isc-isl2015.jimdo.com/>

月・火・水・金曜日の12:10～12:50(長期休暇中を除く)、ローソンの建物(N10-4)内にて、学生スタッフが主に理工系留学生の各種相談に応じる。留学生との交流を目的としたイベントも不定期に開催。

また、国際交流に関心の高い学生には、本学の様々な国際的活動をサポートする「学生国際ボランティア」になる道が開かれています。詳しくは本学ウェブサイトを見てください。

留学生と知り合うには②

●学内の交流イベントに参加する

たとえば、前述の国際教育センター 105では、新入留学生ウェルカムパーティーやBBQ、合宿などの留学生交流イベントを企画・実施しています。まずは気軽に参加してみてください。また、近年、外国の大学関係者や大学生が本学を訪れる機会が増えています。短期間ではありますが、日本人学生との交流を期待して来学することも多いため、ランチ交流や意見交換会といった場を設けることもあります。後述のGlobal Campus等でお知らせしますので、積極的に参加してください。

その他、学内には、World Wide Wingsなどの国際交流のサークルもあります。

●日本語サポーターバンクに登録する

日本語サポーターバンクに登録すると、日本語の授業に参加して留学生の日本語学習の様子を見学したり、会話の練習のお手伝いができます。国際教育センターウェブサイト「日本語サポーターバンク」より参加したいクラスを選び、申し込みをしてください。

●Global Cafeに参加する

不定期に開催されるGlobal Cafeではプレゼンテーションやゲームなどを通じて留学生に自国の文化や歴史を紹介してもらい、日本人学生と留学生が一緒に異文化理解を深めています。開催については、後述の国際交流メールマガジン「Global Campus」や本学ウェブサイトでお知らせします。

●国際交流メールマガジン「Global Campus」に登録する

国際教育課では、学内外の国際交流関連情報（留学、イベント等）をメールマガ配信しています。登録を希望する場合は、YNUアカウント（@ynu.

jp) から件名を「Global Campus登録希望」とした空メールを国際教育課 (kokusai.shien@ynu.ac.jp)まで送ってください。

●研究室・ゼミで声をかける

あなたのゼミや研究室には留学生はいませんか。もしいたら、ぜひ思いきって留学生に声をかけてみてください。

●地域の交流イベントに参加する

横浜市近辺には、地域の外国人との交流を進めている団体やグループがたくさんあります。国際教育センターのロビーに案内が置いてあるものもあります。インターネットで調べることもできるでしょう。興味深い活動を見つけたら、コンタクトをとってみてください。学内の留学生と地域の交流団体とのパイプ役になってくれる日本人学生がいたら、留学生も地域の交流活動に参加しやすくなることでしょう。



ISL主催イベントの「みかん狩り」の様子

●住宅の問題

大学には留学生が住める寮が4つあります。寮の良いところは、民間のアパートに比べ費用が安いこと、保証人が必要ではないことなどですが、入居時期が決まっていたり、入居期間が限られていたりする寮もあります。また、部屋数が限られているため、希望する全員が入居できるわけではありません。そのため、現状では民間のアパートを探して住んでいる留学生も多くいます。

民間のアパートを借りるためには、毎月の家賃以外に、敷金、礼金が必要なこと、また保証人が必要なことなどが留学生を悩ませています。

日本人にとっても住居費は大きな問題ですが、物価の高さが全く異なる国々から来た留学生達にとっては、留学生生活を左右する問題ともなっています。「外国人お断り」というアパートもあり、家探しのときの外国人に対する差別にショックを受けたという留学生も少なくないようです。

保証人については、最近では留学生に限らず民間の保証会社の利用が増えています。仲介の不動産会社が紹介する保証会社を利用すればよいでしょう。大学生協でも、民間の保証会社についての情報を入手できます。アパートの紹介は生協でも行っています。

大学寮のほか、数は多くないですが、留学生が応募できる横浜市等の寮があります。これらの募集については、学生支援課のウェブサイトにお知らせが出ます。詳しいことが知りたいときは学生支援課に問い合わせてください。

なお、本学では「留学生のための住居の探し方・住み方ガイドブック」を発行しています。国際教育センターウェブサイトにも掲載していますので、住まいを探している留学生がいたら紹介してください。

●経済の問題

2012年度におこなったアンケート調査※によると、留学生が困っているこ

ととして回答している項目の上位には以下のようなことがらがあります。

- ◎家賃が高い(39%)
- ◎日本語でのコミュニケーションがよくできない(27%)
- ◎奨学金がもらえない(26%)
- ◎学習時間が十分とれない(25%)
- ◎日本人(学生)とうまく付き合えない(23%)

〈パーセンテージは回答者数に対する割合〉

これらからわかるのは、全体として見ると、留学生にとってまず大きな問題は、経済的な問題だということです。「学習時間が十分にとれない」というのも、生活のためアルバイトに時間を割かなければならないために生じる問題と言えます。留学生の中には十分な奨学金を得て、お金の心配をせずに暮らしている学生もいますが、アルバイトで生活費や学費を稼ぎながら勉強している留学生も少なくないことを理解しておきましょう。

●日本人とのコミュニケーション

また、アンケート結果にあるように、日本人とのコミュニケーションやつきあいに苦労している留学生もいます。言語の問題や文化習慣の相違により、思わぬ誤解をしていることもあります。困難を乗り越えて相互の理解が深まるよう、日本人の側からの働きかけが活発になることを期待しています。

●メンタルな問題

前述のアンケート調査では、回答者の15%が精神的に不安定な状態にあると感じると回答しています。元気そうにみえても、母国を離れ異なる文化圏で暮らしている留学生は、ストレスを多く抱えている場合もあることを理解しておきましょう。メンタル面については、保健管理センター等にも相談できますので、ひとりで問題を抱え込まないようにアドバイスしてください。

※留学生支援方策検討専門小委員会が実施したアンケート調査



国際教育センター 105主催「BBQパーティー」の様子

大学のサークルや部活への入会

～サークルや部活で留学生を受け入れていませんか？～

留学生から「学内のサークルや部活に入りたいけれど、どうやって入ったらいいかわからない」という声を聞くことがあります。もし、皆さんが出会った留学生からそんな声を聞いたら、ぜひ、どんなサークルや部活に入りたいのか話を聞いて、入るお手伝いをしていただきたいと思います。あなたの入っているサークルや部活に誘ってみるのも、一つの方法だと思います。ただ、留学生の側も受け入れる側も、言語に対する不安や文化の違いへの不安を持つ場合もあることでしょう。

実際、言語や文化の違いが、誤解や摩擦を引き起こすこともあるかもしれません。しかし、若い学生の皆さんには、そこを様々な工夫や努力で乗り越えて、共に大学生活を過ごす仲間として認め合い、理解を深め、互いの人間としての成長にも繋げて欲しいと思います。

残念なことに、サークルや部活の中には、留学生は受け入れないというところもあるようです。しかし、留学生であることを理由に入会を断るのであれば、そのようなつもりはなくとも、いわゆる「人種差別」的な態度とみなされることとなります。そのことで、深く傷ついたという留学生もいます。

大学生活の中で、皆さんにとって、サークルや部活が仲間との交流を通して一生続くような友情を育む大切な場であるのと同様に、留学生にとってもそのような場に身を置き、仲間を作っていくことはとても大切なものだと言えるでしょう。学生が仲間と出会う場所に留学生もいることでこそ、大学キャンパスの国際化も実現していくのだと思います。

ぜひ、積極的に留学生をサークルや部活に受け入れてみてください。



本学には留学生へのサポートの一つとして、日本人学生（場合によって先輩留学生）がチューターとして留学生をサポートする制度があります。

チューター制度の利用を希望する留学生には、学部の正規生なら渡日後最初の2年間、大学院生、研究生なら1年間、指導教員が推薦するチューターが留学生をサポートします*。チューターには委嘱期間中の活動に対し謝金が支払われます（留学生1人につき上限時間は半期で約25～30時間。詳しくは春学期・秋学期のチューター説明会でお知らせします）。

仕事としてきちんと活動するのはもちろんのことですが、ボランティアとして手助けするという気持ちも欠かせません。もし、チューターになったら、以下の記述を参考にして活動してください。

●渡日直後の留学生のチューターになった場合

渡日直後の留学生の場合には、生活面での助言や、事務的な手続きについての手助けが必要になります。まずはじめの仕事として、指導教員から留学生の出迎えを頼まれるケースがあります。通常、成田からリムジンバスに乗ってくる留学生をYCAT（横浜シティエアターミナル）で出迎えます。外国に到着したばかりの相手のことを考えて、時間の余裕をもって出かけ、笑顔で迎えてください。

本人にすぐわかるように、大学名や本人の名前を書いた紙を用意しておくのもよい方法だと思います。母国を離れ、知らない土地にはじめてやってくる留学生の心の中は、期待と同時に不安もいっぱいなはずです。受入れ大学の関係者に無事に会ってはじめて少しほっとできるのではないかと思います。歓迎してあげてください。留学生にとって、出迎えでの出会いは、強く印象に残るようです。

出迎えの時間帯にもよりますが、宿舎に着いたあとは、宿舎の周り、

特にどこで食事ができ、どこで食べ物や飲み物を買うことができるか案内してください。

その他、以下にあげるようなことがらについて、必要に応じてサポートをお願いします。

- ◎大学への行き方
- ◎交通機関の利用の仕方（定期券の買い方：ただし研究生や交換留学生の場合は残念ながら原則的に学割が使えません）
- ◎買い物の仕方（100円ショップの紹介なども）
- ◎公衆電話の使い方、携帯電話の購入の仕方など
- ◎銀行の利用の仕方（口座の開設、ATMの使い方）
- ◎学内施設の利用の仕方（食堂、図書館、生協、保健管理センター他）
- ◎学内での事務手続き（学生証の発行手続き他）
- ◎国際教育センターの利用の仕方（日本語科目の履修の仕方^{**}、プレースメントテストの受け方他）

また、次の2つは留学生が到着直後に必ずしなければならない手続きです。できるだけ早く手続きが済むよう、お手伝いしてください。銀行や郵便局の口座は住居地の届出の手続きをしていないと開設することができません。

- 住居地の届出：区役所で行う。在留カードとパスポートが必要。
- 国民健康保険への加入：区役所で行う。

※学部、大学院、留学プログラムによって、チューター制度が異なる場合もあります。

※※国際教育センターの日本語の授業についてのパンフレットが学生センター2階にあります。また、国際教育センターのウェブサイトからもダウンロードできます。

●チューターの役割

チューターには来日直後のサポートの他、日常の学習（日本語、専門科目）に関する手伝いや日常生活に関する手伝いが求められています。

まず大切なことは、留学生がチューターにどのようなサポートを求めているか、チューター自身ができることは何かをお互いよく話し合うことです。留学生によって必要とする手助けは違います。また同じ留学生でもそのときどきによってチューターに手伝ってもらいたいことも違ってくるでしょう。

日本語の会話の練習相手を求められる場合もあれば、事務手続きの手伝いを求められる場合もあるでしょう。住宅探しの手伝いを頼まれたり、専門分野についての質問をされたりすることもあるかもしれません。ときには日本での生活についての不安や不満を聞いてもらいたいということもあるかもしれません。

相手とよくコミュニケーションをとりながら、チューターの活動を進めてください。また、この冊子に載せているような留学生に関する情報も頭に入れておくと、チューター側からも日本での生活を楽しんでもらうための提案ができるかもしれません。留学生向けメールマガジン「YNU留学生ネット isynu-net」では、交流行事や就職ガイダンス情報などを発信しています。詳細は国際教育センターのウェブサイトに掲載していますので、登録をすすめてください。

さて、留学生とうまくコミュニケーションをとるために、またチューターとしての役割をうまく果たすために、定期的会う約束をしておくことを勧めます。

留学生の中には、わざわざ連絡してまで助けてもらうことではないと考え、問題を先送りにしたり、チューターが忙しそうだから手助けを頼むと迷惑かもしれないと考えたりする学生も少なくありません。定期的会うことで、留学生が小さな相談ごとでも気軽に話せるようになったり、またチューターの方で留学生の生活や学習の上での問題点に気づいたりする関係が築かれていくのではないかと思います。

用事があるときだけ連絡をとることにしておく、連絡するのがおっく

うになり、結局ほとんどチューターに会わずに期間を終えてしまうこともあるようです。せっかくチューター制度があっても十分に活用されないのは残念なことです。

チューターになる学生には、アルバイトとして留学生を手助けするというよりも、むしろ友人として留学生の勉強や生活をサポートするという気持ちをもって活動に臨んでほしいと思います。違う文化の中で育ってきた留学生とのつきあいは、サポートする側、される側という関係を越えて、日本人学生にとっても新たな視点を提供してくれる刺激的なものになる場合も少なくありません。留学生との関わりをチューター自身にも楽しく感じてもらえることを願っています。

しかし、もし、チューターの活動が重荷になったり、困難を感じたりするようなときには、ひとりで問題を抱え込まないで、留学生の指導教員や各部署の留学生担当の教職員、学生支援課や国際戦略推進機構の留学生指導担当の教員等に相談してください。

また、留学生が精神的に落ち込んでいるなど留学生について何か心配なことがあったりしたときも、上記の教職員と連絡をとってください。メンタルな問題については、保健管理センターに相談できます。いつでも相談できますが、毎週月曜日には、留学生の相談を特に専門としているカウンセラーが来ています。また、セクシャル・ハラスメントやパワー・ハラスメントについても学内に相談員がいますので、困った時には相談してください。

●チューターの手続き

チューターの選定は、原則として春・秋学期ごとに各学部・大学院で行い、学生支援課で委嘱状をチューターに交付します。委嘱状の交付は「チューター説明会」で行い、あわせて「横浜国立大学チューター手引き」を渡します。この手引きには、チューター活動について詳細な説明と参考資料が付いています。各学部・大学院で選定された学生には、あらかじめチューター説明会の案内を学部・大学院を通じて行くとともに学生センターの掲示板で告知します。チューター説明会は、春学期は4月、秋学期は10月に行いますので、必ず出席してください。

10 留学生がチューターに望むこと

以下、過去に行ったチューター制度に関わるアンケート*の結果の一部を紹介します。

ひとつめは、留学生へのアンケートの中で、「チューターにどんなことを望むか」についての回答で、あてはまる項目を複数選んでもらったものです。

()内の数字は、回答件数です。

- ◎話しやすい雰囲気をつくるようにしてほしい。(44)
- ◎日本の習慣や文化をできるだけ説明してほしい。(42)
- ◎定期的に会ってほしい。(38)
- ◎友だちとしてつきあってほしい。(33)
- ◎自分から連絡しなくても、ときどき連絡してほしい。(32)
- ◎留学生がどうしてほしいか、チューターがどんなことができるかについて、よく話し合うようにしてほしい。(29)
- ◎留学生の国や文化についても理解するようにしてほしい。(23)
- ◎できるだけわかりやすい日本語で話してほしい。(19)
- ◎英語(あるいは他の外国語)で話してほしい。(13)
- ◎相談したことは、他の人に話さないでほしい。(12)

次の回答は「チューターがいて、よかったのはどんな点であるか」について自由に記述してもらったものの結果です。

- ◎日本の文化についてよくわかるようになった。(21)
- ◎日本語の勉強に役に立った。(9)
- ◎日本人の友達がひとり増えた。(9)
- ◎日常生活で役に立った。(8)
- ◎新しい生活に適應することに役立った。(7)

これらを見ると留学生の多くはチューターに対して友人のような気軽に話せる相談相手になってほしいと望んでいることがうかがえます。そして、チューターを通して、日本の習慣や文化への理解を得ていることも多いことがわかります。チューターになった時にはぜひ参考にしてください。

*留学生支援方策検討専門小委員会が実施したアンケート調査

あとがきに代えて

日本人学生と留学生との交流に少しでも役立つようにと思い、このハンドブックを作成しました。国際教育センターのウェブサイトにも、この冊子の他、最新のイベント情報含め留学生との交流に役立つ様々なことがらを掲載していますので、活用してみてください。

●国際教育センターウェブサイト <http://www.isc.ynu.ac.jp/>

また、この冊子に関してなにかお気づきのことがありましたら、ぜひ下記へご連絡くださいますようお願いいたします。

●横浜国立大学 国際戦略推進機構

教授 藤井 桂子

Tel: 045-339-3187 e-mail: fujii-keiko-kf@ynu.ac.jp

横浜国立大学
留学生との交流ハンドブック



横浜国立大学 国際戦略推進機構

2019年3月発行

